

すみれ通信 116号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています

〒 251-0032
藤沢市片瀬339-1
藤沢市医師会館
在宅医療支援センター
☎ 0466-41-9980
Fax 0466-41-9981
メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp

2月



第2回 地区別懇談会開催報告

日時： 令和7年1月18日(土)

14:30~16:30

場所： 明治市民センター 4階ホール

テーマ： 認知症の患者さんへの多職種での
かかわり

参加者：33名(初回参加者19名・2回以上14名)

職種	人数	所属	人数
医師	3	病院診療所	7
薬剤師	2	薬局	2
看護職	13	訪問看護ステーション	5
介護職	2	居宅介護支援事業所	8
社会福祉士	4	地域包括支援センター	7
ケアマネジャー	7	事業所	1
事務職	2	その他(市・社協)	3

高齢者支援課の松尾氏から「藤沢市の認知症に関する取り組みについて・認知症初期集中支援チームに関する取り組みと現状」の話をしてもらった後、6名1グループとし30分でメンバーチェンジして2回のグループワークを実施。

アンケート結果の抜粋(回収率100%)

- 直接顔を会わせて話ができる機会はありがたい。
- 自分の事例についてアドバイスをもらえた。
- 困っていたことが一人で考えず連携できるのかも思うことができた。
- 多職種の方々と直接の意見交換ができるのは視野、知見が広がり学びになった。
- 普段電話などで関わりがあっても顔が見えづらかったりするので近隣の関係職と話せて良かった。
- 答えは出ないテーマだが、みんな悩みながら支援しているのが共有できた。
- 問題や課題を共有させていただき、同じように悩んでいたたり又新たな見解を知ることでもでき、有意義だった。



グループ発表から抜粋

- 認知症の疑いはあるが診断のついていない方へのアプローチが難しい。
- 職種によってとらえる課題が違うので、困難事例は訪問看護師に繋ぐ、薬に対する困りごとは薬剤師に相談する、CSWへ相談するなど連携やチームで動くことの有効性や重要性がある。
- 簡単なことではないが、本人が認知症を受け入れられるよう関わることも必要。本人も認知症であるという認識はなくても、「なんか変だな、おかしいな」という実感(病感)はあるはず。本人が認知症を受け入れる際にキーパーソンになるのは医師である。

- 本人の思い通りにするというより、本人の思いがどこにあるのかを考える必要があるのでは。まずは本人に話をきく(傾聴の姿勢)ことが重要。
- * 認認介護、独居、経済的課題のある方などかかわりの中で困った事例を話し合い有意義だった。

特定医療法人グループ・プラクティス研究会

ルピナス在宅クリニック

徳山 淳

ルピナス在宅クリニックは、藤沢御所見病院在宅診療部のサテライトとして、2024年5月1日に新たに湘南台に開業した在宅診療専門のクリニックです。

藤沢市湘南台を中心とした、綾瀬市と大和市南部、横浜市泉区・戸塚区の一部に居住している移動困難な高齢の方々を対象に、自宅や介護施設に出向き、診療することを目的としています。

この地域は歴史的に、1970年代からの宅地造成に伴い、ライフタウンをはじめとした大規模中規模のさまざまな団地が密集しています。落成から50年以上が経過し、当時移り住んできた方々は一斉に高齢化し、藤沢市内で最も高齢化率が高い地域となっております。なおかつ、鉄道空白地帯を抱え、高齢者の移動手段が車かバスに限られるために、医療機関受診困難者が多いことが推察されています。藤沢御所見病院のある瀬郷地区は、まさに交通空白地帯に位置しており、以前から在宅診療を手掛けておりました。

当クリニックは、その実績を受け継ぐ形で地域を広げるイメージでの開業となりました。患者さんの医療情報は同一の電子カルテを使うことで共有が可能で、なおかつ、藤沢御所見病院の地域包括ケア病床、医療療養病床への入院が直に可能なことを一番の特徴として運用しています。

今後としては、周辺の医療機関及び各種介護施設、在宅サービス関連事業所との情報共有のシステムを構築することを最大の課題ととらえ、藤沢市医師会在宅医療支援センターとともに、連携方法を模索しております。

今後も、日々、高齢患者の方々のケアに精進してまいりますので、どうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

ルピナス(和名 のぼり藤)の花言葉 「ずっと幸せ」

